

富士山世界遺産センター（南館）及び奇石博物館見学記

天岸 祥光

平成30年7月8日（日）、NPO主催のこの二つ
の見学会に参加しました。どちらも私にとっては
初めての見学で、特に坂茂設計のセンターの逆さ
富士を是非見たいと思っていました。

参加者は副理事長の三宅さん初め NPO 関係者
8名、ミュージアムサービススタッフ関係者9名、
その他柴さん関係の東海大学学生等5名、合計2
2名で、車に分乗して静岡駅から出発しました。
ミュージアムを支えているサービススタッ
フの皆さんには、なかなかゆっくりお目にかかれ
ないのが我々 NPO の大きな課題だと思っていま
したのでこういう機会は大切なのですが、車に分
乗してしまっているので、お話をすることは残念
ながらあまりありませんでした。

逆さ富士の建物は評判通り見応えがあり、観光
客が周りに大勢集まっています、全員がスマホ、
カメラを向けていました。私もその一人でした。
しかし見逃してはいけないのは、その脇に堂々た
る姿を現している富士山です。

さて、圧巻の本物の富士山から離れて建物の中
に入ってみると、らせん回廊になっていて上まで
上がっていく途中、暗い回廊の壁面に展開する8
台のプロジェクターによる大映像画面に気を取ら
れているうちに、少し目が回ってくるような気分
になったのは私だけではなかったようです。よっ
て何の映像だったかは、今はよく思い出せません。

途中三宅さん達 NPO が苦勞して作った写真を
映像で見せる部屋がありました。何とも殺風景
な部屋の一番奥に置かれた2台のパソコン並みの
小さな画面での演出でした。

最上階には富士山が真ん前に見える、そして周
辺の山々もかなりクリアに見える（確か愛鷹山か
ら田貫湖の近くの天子ヶ岳まで見えたように思
いました）部屋になっていました。これは圧巻です。

下りは各部屋を覗きながら回廊を降りること
にしましたが、どの部屋も写真などが主体です。
富士山の頂上から三保の松原までの数多くの文化
遺産をこのセンターでどう展示するか、どうし
ても写真、映像になってしまうのはやむを得ない
ことだったかもしれません。しかしテレビサイ
ズの小さい画面が多いため、多くの人が集まっ

と後ろからは見えなくて、順番を待っている
のもだんだん飽きてきて省略気味に1階まで降り
て来てしまいました。ただ途中富士山を中心
に置いた大きい曼陀羅図だけは興味深くよく見
てきました。

一通り見終わって、私が気になったことが二
つありました。一つ目は、富士宮の観光ル
ートにこのセンターは完全に組み込まれてい
るので、間違いなく「入館者数」は心配あり
ませんが、果たしてもう一度個人的に來たい
と思う人がどのくらいいるだろうか、とい
うことでした。二つ目は、テレビやゲーム
の画像になれている、あるいは疲れている
子供たちはこの「写真館」にわくわくす
るだろうか、夏休みの自由研究のテーマ
探しにここにやってくるだろうか、とい
うことです。子供たちは、実物を見たい、
触りたいのであって、その点、我々のミ
ュージアムの方がはるかに子供たちを
引きつける力があるのではないかと思
いました。

午後のもう一つの、車で北へ40分ほど
行ったところにある私設「奇石博物館」
を見学しました。そしてこんな博物館
があったのだと、初めての私はす
っかり驚いてしまいました。

紙面の関係で詳しくは紹介できません
が、学術的な分類に従うのが博物館
の「常識」ですが、それを打ち破
って面白い形の石、饅頭の形の石
と言った学術分類には従わない
分類で展示するので、思わず引
きずり込まれてしまいます。サ
ービススタッフの方々も魅せら
れてしまったようで、集合時
間に遅れて集まってきました。

この他にここで感心したことは、主
な説明文には当然のように漢字
にルビが振ってあったこと
です。我々のミュージアムの運
営協議会で、私は子供たちが
読めるように説明文にルビを
振ってほしいと要求している
のですが、まだ実現していま
せん。子供を完全に意識して
いるこの奇石博物館はさすが
に分っているな、と思いま
した。

ということで、今度の見学会は
いろいろな意味で私にとって
参考になりました。皆さんあ
りがございました。